

【肥料】

対象雑草		薬剤名 (有効成分)	10a薬量	使用時期 (収獲前)	回数	備考
1年生雑草		ロロックス (ロニエロン)	100~200g	植付直後~萌芽前	1回	発芽前~萌芽直後の雑草全般に効果が高い。効果の発現は緩慢だが、長い残効性を有する。
		ゴ-ゴ-サン乳剤 (ベンディイザリン)	200~300ml	植付後~萌芽前	1回	
		ラクサー乳剤 (アフラクサー)(ロニエロン)	400~600ml	植付後~萌芽前	1回	ラクサー+ロロックスの混合剤。イネオオスキ、クコサなどに効果がある。
		ボクサー (プロスホキカルブ)	400~500ml	植付後~萌芽前	1回	クコサ、シロサにはやや効果が劣るが、イネオオスキに効果が期待できる。
		モーティブ乳剤 (ジメチナトドP)(ベンディイザリン)	200~400ml	植付後~萌芽前	1回	フィールドスクート+ゴ-ゴ-サンの混合剤。イネオオスキに効果が期待できる。
		センコル水和剤 (ハロフリン)	100g	植付直後~萌芽期	1回	発芽後までの雑草全般に効果が高い。メークインでは萌芽前までに使用。
		バスター液剤 (グルホシネート)	100~200ml	植付前~萌芽直前	1回	低湿時やシロサが優占する圃場では効果が劣る場合があるため、農薬剤(クサリノ-50)などを加用すること。
		グクサ液剤 (グルホシネートP+チムラム)	100~200ml	萌芽前	1回	
1年生 イネ科雑草		ナブ乳剤 (ヒトシシム)	150~200ml 200ml	雑草3~5葉期(前日) 雑草6~8葉期(前日)	2回	イネ科雑草8葉期は200ml。
		ボルトフロアブル (ネダコロアピエチル)	200~300ml	雑草3~8葉期(前日)	1回	イネ科雑草8葉期は300ml。
蕎麦枯倒		デコラン乳剤 (ピラフアノシエチル)	250~450ml	蕎麦黄変期(3日前)	2回	枯倒目的での使用は極早期徐踏殺傷のみとする。

対象害虫		薬剤名 (有効成分)	倍率 10a薬量	薬量 (水100L)	使用時期 (収獲前)	回数	系統名 有効成分
アブラムシ類	ナシトウモロコシ	アブラムシ類…主に3種類のアブラムシが発生し、ウイルス病(葉巻病、モザイク病)を媒介する。一般に6月上旬からジャガイモがナシトウモロコシアブラムシモザイクアブラムシワタアブラムシの順に発生する。発生予測を参考に効果的な薬剤選定を行う。また、最近ではナシトウモロコシアブラムシなどの害虫が発生し、幼虫による葉の食害が発生している。アブラムシ類防除時には、これらの害虫にも効果の見込める薬剤の使用が有効である。					
		ナシトウモロコシ…幼虫による根や塊茎への食害被害を受ける。成虫の飛翔が年1回であるため、6月上旬頃に防除を行うことで産卵を防ぐ。越冬場所になる防風林に近い圃場や、成虫の発生が多い状況では2回防除を行うことが望ましい。					
○	○	ジェイエース粒剤 (フェニフェート)	3~6kg(作業散布)		植付時	1回	有機リン
○	○	エンセタン乳剤 (プロフェノホス)	1,500倍	66ml	7日前	6回	
○	○	グットア外WOG (シメタリジン)	2,000~3,000倍	50~33g	7日前	4回	ヒスロイド
○	○	アクトラ顆粒水溶剤 (アフラキサン)	3,000倍 2,000倍	33g 50g	14日前	3回	
○	○	モスピランSL液剤 (アセチリプト)	2,000~4,000倍	50~25ml	7日前	3回	ネオニコチノイド
○	○	アトマイヤー顆粒水和剤 (イミダクロプリド)	5,000~15,000倍	20~66g	14日前	2回	
○	○	クララDF (クロロピリド)	2,000~4,000倍	50~25g	7日前	2回	同畑目誘食阻害剤
○	○	コルト顆粒水和剤 (ピラミタナジン)	4,000~8,000倍	25~12.5g	前日	3回	ヒワキメナゾン
○	○	モネンプロアブル (スピロテクト)	4,000倍	25ml	7日前	3回	チロキ酸

(12 35)

適用病害		薬剤名	倍率 10a薬量	薬量 (水100L)	使用時期 (取扱前)	回数	系統名 有効成分		
黒あざ病		モンカットフロアブリアク(フルタニド)	100～200倍 (瞬時～10分間浸漬)		植付前	1回	SDHI		
そうか病		アグレプト液剤(メトミシ)	100倍(5～10秒間浸漬)		植付前	1回	グルコビラリル抗生物質		
そうか病		フロンサド(フルタニド)	30～40kg(全面土壌混和)		植付前				
粉状そうか病		フロンサド(SCIフルタニド)	600ml(全面散布土壌混和)		植付前		他合成		
		フロンサド水和剤(フルタニド)	600g(全面散布土壌混和)		植付前				
		オケラ顆粒水和剤(フルタニド)	250g(全面散布後土壌混和)		植付前	1回		Qil	
疫病	夏疫病	塊茎腐敗	軟腐病	・疫病…発病は着蕾期～開花始期頃である。10℃を超えると活動が始まり、18～20℃が最適温度である。降雨により多湿になると急速に蔓延する。塊茎腐敗は茎葉の疫病菌が落下して土壌中に入ると、土壌中の塊茎に感染して発病する。茎葉の疫病に効果があっても塊茎腐敗には効果が無い薬剤があるのを注意する。 ・夏疫病…7月中旬頃から下葉に発生し、次第に上葉におよび、8月中旬頃から蔓延する。発病適温は26℃前後で、植物体の老化および肥料不足などで活性の低下した場合に多発しやすい。					
○	○	○	○	グーベックエニケート (ナキニチアミド)	5,000倍	20ml	7日前	2回	ビバジールニチアミド イソキサザン
○	○	○	○	エキナシ顆粒水和剤 (エキナシニチアミド)	2,000～3,000倍	50～33g	7日前	3回	シアノセトニチアミド CAA
○	○	○	○	グリーンガード水和剤(メソセブ) グリーンガード水和剤(メソセブ)	400～600倍 400～600倍	250～166g 250～166g	7日前 7日前	10回	シチオカーバート
○	○	○	○	ホラズンドラフロアブ (メソセブ)	1,000～2,500倍	100～40g	14日前	4回	シアノセトニチアミド Qol
○	○	○	○	フロアブ顆粒水和剤 (メソセブ)	750～1,000倍	133～100g	7日前	3回	CAA クロロニル
○	○	○	○	リラフロアブ (メソセブ)	800～1,000倍	125～100ml	7日前	3回	ベンズアミド カーバート
○	○	○	○	レーバフロアブ (メソセブ)	1,500～2,000倍	66～50ml	7日前	2回	CAA
○	○	○	○	ランマンフロアブ (メソセブ)	1,000～2,000倍	100～50ml	7日前	4回	Qil
○	○	○	○	ラバフロアブ (メソセブ)	2,000～3,000倍	50～33ml	7日前	4回	Qil
○	○	○	○	フロンサド(SCIフルタニド)	1,000～2,000倍	100～50ml	7日前	4回	他合成
○	○	○	○	フロンサド水和剤(フルタニド)	1,000～2,000倍	100～50g	14日前		
○	○	○	○	トアシンM水和剤 (チオファートニチアミド)	1,000～1,500倍	100～60g	7日前	5回	MBC
○	○	○	○	フジノフロアブ (メソセブ)	500倍	200ml	—	—	無機化合物(銅)
○	○	○	○	コサイト3000 (水酸化第2銅)	1,000倍	100g	—	—	無機化合物(銅)
○	○	○	○	バクスター水和剤 (非毒性メソセブ)	1,000～2,000倍	100～50g	発病前～ 発病初期	—	生物農薬
○	○	○	○	マスカビス水和剤 (シュドメタノロゲン)	1,000～2,000倍	100～50g	発病前～ 発病初期	—	生物農薬
○	○	○	○	マナナ水和剤 (チオニル酸)	1,000倍	100g	7日前	3回	カルボン酸 グルコビラリル抗生物質
○	○	○	○	スターナ水和剤 (チオニル酸)	1,000倍	100g	7日前	5回	カルボン酸
○	○	○	○	アグレプト液剤 (メトミシ)	1,000～2,000倍	100～50ml	7日前	5回	グルコビラリル抗生物質
○	○	○	○	バリダシン液剤5 (メトミシ)	500倍	200ml	3日前	6回	グルコビラリル抗生物質